

公開実用 昭和 58— 88912

Citation 2

BEST AVAILABLE COPY

19 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭58—88912

51 Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 45 D 34 04

識別記号

庁内整理番号  
6671—3B

43 公開 昭和58年(1983)6月16日

審査請求 未請求

(全 頁)

54 マスカラ塗布具

21 実 願 昭56—185565  
22 出 願 昭56(1981)12月12日  
72 考 案 者 岩本陽一

11 出 願 人

東京都葛飾区西新小岩3—20—  
8 株式会社葛飾プレス工業所内  
株式会社葛飾プレス工業所  
東京都葛飾区西新小岩3—20—  
8

明 細 書

1 考案の名称 マスカラ塗布具

2 実用新案登録請求の範囲

キャップに植設された塗布棒の先端を若干の湾曲、即ち臉程の曲率半径を有した円弧状の塗布部とした事を特徴とするマスカラ塗布具。

3 考案の詳細な説明

本案は、マスカラ塗布具の改良に係る考案である。従来よりマスカラ塗布具に於いて、その塗布部の改良に関する考案、及び塗布具に付着した化粧料を拭い取ったり、適当量に調整するしごきゴム栓に関する考案は数多く提案されている。しかしながら、そのほとんどの考案に於いて塗布棒が直線形状のものが使用されている為に、利腕が右の使用者の場合、鏡に対面した右目の睫に塗布する場合は支障なく塗布できるが、左目の睫に塗布する場合に於いて、右目の場合のように睫に平行に塗布部で塗布しようとするとき塗布棒が鼻に接触してしまい、容易には塗布できずに塗布部を目に対して傾斜させ塗布棒を鼻から遠ざけ、即ち塗布

部先端部付近での塗布を行なう事となり、更には不慣れな左手で塗布しなければならない不便があった。そこで、塗布部を塗布棒に対して傾斜させた構成の塗布具が実用新案公報昭和56年40324号に提案されている。しかし、この様にあらかじめ傾斜固定させた塗布具の場合、容器挿入口は長円形状にしたりして大きくせねばならず、通常マスクラ容器に常備されているしごきゴム栓の設置も難かしく、塗布棒に付着した化粧料を拭い取る事ができないばかりか、塗布部に付着した化粧料をも適当量に調整する事ができないものであった。又、口部が拡大する事により化粧料容器が持つ意匠感をも改悪するものであった。更に、塗布棒の先端から傾斜させた直線状の塗布部を取着している為、外向側は頬骨部と塗布棒との間隔を広く維持可能で塗布し易いが、内向面側は従来用具よりも頬骨部等に塗布棒が接触し易くなる為、使用する塗布部は外向面と先端部のみの塗布用具となってしまうものであった。

本考案は以上の点に鑑がみて改良されたマスク

ラ塗布具であり、以下図によって説明する。

第1図は、本考案実施例1で塗布棒1はキャップ2に植設されており、その先端には瞼の曲率半径程度の円弧状に湾曲した塗布部3が取着した構成のマスクラ塗布具である。

本考案は上述のように、マスクラ塗布時に於いて、その塗布部3が瞼の曲率半径程度の円弧状に湾曲した形状となっているので、内向部4で瞼全体へ塗布できるようになっている。即ち、従来の直線状の塗布部では瞼に対し接線的な塗布を繰り返す操作に比較して容易に塗布できる効果がある。更に、塗布部3の外向部5では、瞼の細部、若しくは局部的な部分へ塗布可能となるばかりではなく、頬骨部と塗布棒との間隔を広くして使用する事も可能となるものである。

又、塗布部3の湾曲の曲率半径は瞼程度の円弧状のものであるから、容器口部も楕円形状等にする必要もなく、しごき栓を装備した周知のオートマスクラ容器への挿入拔出もスムーズに行なえる形状となり、塗布棒1へ付着したマスクラを拭い

取る事もでき、更に塗布部 3 へのマスカラ付着量も適当量に調整でき得るものである。

4. 図面の簡単な説明

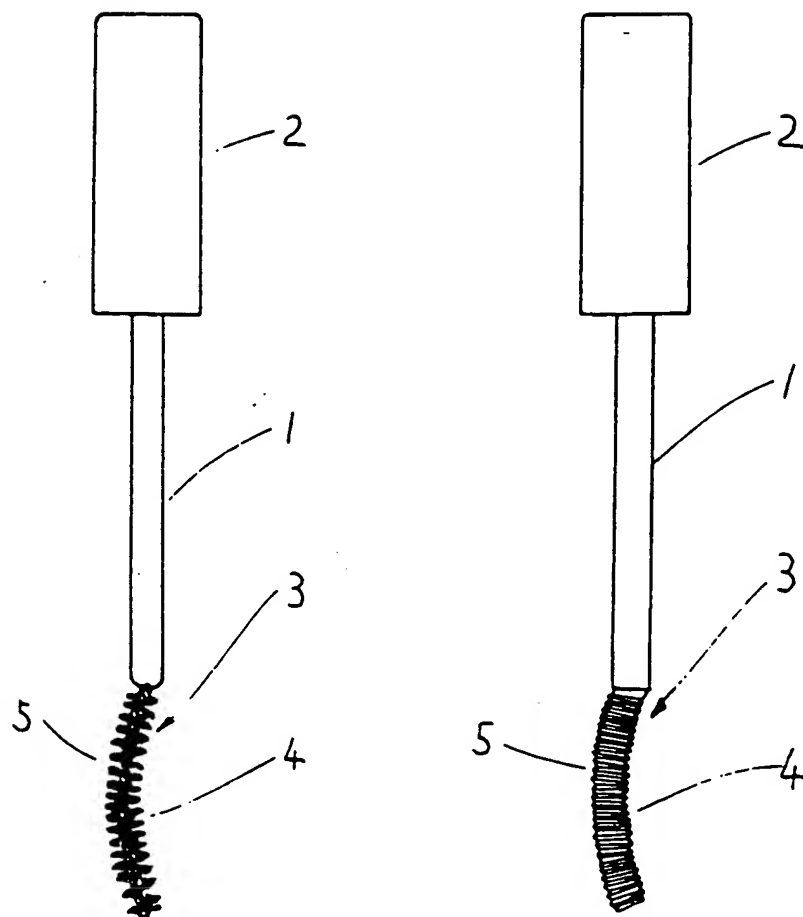
第 1 図は本考案実施例の正面図。第 2 図は本考案他実施例の正面図。

1 ～ 塗布棒    2 ～ キャップ    3 ～ 塗布部    4 ～ 内向部    5 ～ 外向部

実用新案登録出願人

株式会社 葛飾プレス工業所

面 図



第 1 図

第 2 図

出願新案登録出願人  
株式会社 葛飾プレス工業所